



ひので映画大使最新版

第28回映画大使「わが母の記」

期 日 平成24年4月28日(土)
 場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【ストーリー紹介】

小説家の伊上洪作(役所広司)は、幼い頃に両親と離れて暮らしていた事から、母(樹木希林)に捨てられたと思い続けてきた。そんな中、父が亡くなり、洪作は年老いた母と向き合う事となる。年老いて次第に失われていく母の記憶。そして、初めて知る母の想い…。

文豪・井上靖の自伝的小説を映画化。美しい風景の中で、家族の愛のドラマが繰り広げられます。



(C)2012「わが母の記」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。



今回、参加された映画大使の皆さんです！

▶ 映画大使の「第一声！」

豪華俳優達の共演が素晴らしかった！

樹木希林さんの演技が最高に良かった！

親と子の絆に感動した！

▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

樹木希林さんの素晴らしい演技を楽しませてもらいました。昭和の時代背景も懐かしく、美しい景色、軽井沢の雰囲気、家庭の描写なども良かったです。親の子供への愛も伝わりました。

Bさん

樹木希林さんは、お婆さん役を若い頃から演じていますよね。映画でも描かれていましたが、笑いのあるシーンから後半の考えさせられるシーンまで、その使い分ける演技に引き込まれてしまいました。自分の親が同じように老いていった時、どう対処していくのかという事も、考えさせられました。昭和30年代の景色、わさび田などの風景も綺麗で、古き良き日本の雰囲気を味わえました。

Cさん

私の母は急に亡くなりましたが、もう少し生きていたらどうだっただろうと思いつつ観ていました。主人の母は今、施設に入っておりますが、家族としての接し方なども参考になりましたし、家族のありようなど、色々生い立ちなども含めて、人間の成長というか、人生をどのように生きていくか、自分も母ですし、一個人として考える事が出来ました。

Dさん

お互いを誤解し、子を想う母の気持ちがいかに分からずにいる中、最後に、母が生きている内に本当の想いが伝わり、すれ違っていたり、ねじれたりしていたものがやっと繋がって、ほんとに良かったと思いました。時代考証というか、風景が本物そっくりで、クラシックの音楽もとても合っていましたね。

Eさん

複雑な親子関係と、母の老いという事で、もっと重たい雰囲気なのかと、観る前は思っていたのですが、そういう事を受け止めながらも、笑いの場面もあり、親子3代の家族愛がきちんと描かれていて、また、演技の素晴らしさもあり、楽しく観る事ができました。

Fさん

重いテーマでしたが、樹木希林さんの演技がそれを和らげていたと思います。景色も良く、ロケハンが大変だっただろうなと思わせる素晴らしさでした。私も祖母が亡くなっていますが、認知症だった事もあり、孫の宮崎あおいさんの視点からも、また、親は健在ですが、息子の役所広司さんの視点に立っても観る事が出来ました。役所広司さんは実在した人物を演じる事が多いですが、役作りなど大変だろうなと思います。また、井上靖さんの自宅で撮影が行われたそうですが、時代の雰囲気良く出ていたと思います。

Gさん

海の映像とか、水の音とかが凄く綺麗でした。昭和の時代を描写していましたが、現代の時代も『心』の使い方って一番難しいと思います。母を許せない自分が許せないっていう所あって息子は苦しんだと思いますが、そういう逆境も作家としては良かったのかなと思いました。娘達も、父親に疑問を抱いたりもしていましたが、だからこそ、おばあちゃんと父親に寄り添っていったのだろうなと思いました。そういう描写もリアルでした。

📌 作品の内容 (印象に残ったシーンなど)

- ・ 認知症が進んでいく様子が描かれていましたが、最後まで記憶に残っていたのが息子の事だったんですね。
- ・ 息子が書いた詩を覚えていたシーンが、とても心に残りました。
- ・ 三國連太郎さんのメイクなし(?)の演技も凄かったです！
- ・ あの時代と現代では、家族関係も違いますよね。昔はあまり余計な事は言わないし、父親の威厳もありましたし。その辺の描写もリアルでしたね。
- ・ 日常描写にもリアリティがありましたね。会話のテンポも独特な感じで良かったと思います。
- ・ カメラアングルなど、劇場ならではのですね。
- ・ 悲しいシーンなどに雨の音を効果的に使っていましたね。
- ・ 老化が進んでいく中で、顔の表情とか、口元とか、歩き方や、どんどん小さくなっていく様子を本当に自然な感じで演じられていましたね。

📌 まとめ

いつの時代も、人との「絆」は本当に大切な事だと思います。家族や友達など、人と関わるという事は「絆」を築いていく事であり、何があってもそれは崩れるものではないんだと、この作品を観て改めて思いました。今作は井上靖さんの実話がベースとなっていますが、樹木希林さん、役所広司さん、宮崎あおいさん達の素晴らしい演技と、日本の美しい風景が、家族の愛の物語を見事につくりあげていました。

新年度1回目の映画大使ですが、応募いただいた30名の大使が映画の素晴らしさをお伝えしていきます。大使の皆様、よろしくお願いいたします！

➡ [関連ページ: これまでのひので映画大使](#)

➡ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係

電話042-597-0511(内線544)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶